

経営者の皆さまに、
充実のオフタイムを。



JP かんぽ生命
INSURANCE

かんぽスコープ

Vol.88

ご勇退後の生活を実り多いものとするためのご準備にもお役立てください。

青に金ボタンのクラシックな制服の乗務員が出迎える。



オリエント急行の旅

近代ヨーロッパの精髓に触れる。



アルプスの絶景の中を走行するVSOE。

あのオリエント急行が 現代に甦った。

ロンドンからベニスまで、距離にしておよそ1750km。1泊2日の日程で、30時間をかけてヨーロッパ大陸を縦断する優雅な鉄道の旅を堪能できるのが「ベニス・シンプロン・オリエント・エクスプレス」(以下、VSOE)だ。

ルート(裏面参照)を見て、「おや?」と思った方もいるだろう。オリエント急行といえば、パリ・イスタンブール間をはじめとした西欧と東方世界を結ぶ列車。アガサ・クリステイの『オリエント急行の殺人』も、イスタンブールからフランスのカレーに向かう列車が舞台になっているからだ。だが、ヨーロッパの社

航空機による輸送ルートが四通八達し、
能率や効率が最優先される現代社会にあっても、
鉄道の旅を愛する人は多い。
中でも豪華列車の人気は高く、
JR九州「ななつ星」の大成功も記憶に新しい。
そこで今回は、
豪華列車の元祖であり王道ともいえる
「オリエント急行」に乗る旅に出かけてみよう。

交際の華として1930年代に最盛期を迎えたオリエント急行は、第二次大戦後は東欧の政情不安や航空機の発達におされて利用客が減少。徐々に豪華列車としての性格は失われ、77年には廃止されてしまった。

VSOEは、この豪華列車の姿を現代に甦らせた、いわばリバイバル。82年、イギリスの実業家が黄金時代を飾った車両を買い取り、1000万ポンド以上の費用をかけて修理・改装。ロンドンからベニスまでの運転を開始したのだ。ベル・エポックの栄光を身にもとう豪華列車の再来は評判を呼び、ノスタルジィをかきたてる観光列車として大成功をおさめ、現在も多くの人々がこぞってVSOEの旅に出かけている。

旧き佳き時代を再現した、ノスタルジックな空間。

それでは、VSOEの旅の道程を紹介しよう。始発駅となるのはロンドンのヴィクトリア駅。30年代に大型客船を利用する乗客を運んだ豪華列車「プリティッシュ・プルマン」とよばれる食堂車両に乗り、早めの昼食をとる。

フォークストン駅に到着したら、いったんバスに乗り換え、ユーロトンネルを抜けてフランスのカレー駅へ。そこで出迎えるのが、群青に金の装飾をまとったワゴン・リ社製の車両だ。この列車は17両で構成され、それぞれ内装の異なる豪華レストラン・カー3両、ピアノの生演奏が流れるバー・カー1両、それに寝台車11両が連結されている。

フランス国内を走り出すと、この旅のハイライトのひとつ、フォーマルウェア着用が義務づけられたディ



客室は1920年当時のオリジナルモデルを踏襲した上下二段の寝台。



上/総料理長のボディゲル氏は、30年以上食堂車の厨房に立ち続ける。

中/ディナーは本格的フレンチ。

下/落ち着いた内装で乗客を迎えるバー・カー。

※1ポンド=140円で計算

ナータイムがやってくる。3両あるレストラン・カーのいずれも利用できるが、せっかくならばオール・ヌーヴォーのデザイナーとして有名なルネ・ラリックが内装を手がけた「コート・ダジュール」をおすすめする。往時を想起させる優美な空間で、ドレスアップしていただくフレンチは極上のひとときを味わえるだろう。ディナーのあとはバー・カーで各国の旅行者と触れ合い、社交界のような雰囲気を楽しめるのも、この旅の醍醐味だ。

夜が明ければ、車窓にはスイス・オーストリアのアルプスの山々が広がる。美しい田園風景を眺めながら、客室でとる落ち着いた朝食は、オリエント急行ならではの特別な時間だ。

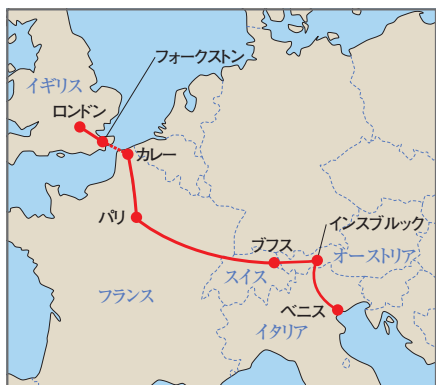
アルプスのトンネルを抜けてイタリヤへ入れば旅の終わりはもうすぐ。

ぐ。レストラン・カーで最後の昼食を食べ終える頃には、終着駅の水の都ベニスに到着する。

往年の旅を彷彿とさせる、イスタンブール行きも運行。

VSOEの旅の費用は、現地への渡航費などを除いて約34万円[※]。これには乗車料金、ディナーなどの食費がすべて含まれている。予約は必須だが、公式サイトは英語受け付けのみ。敷居が高いと感じるならば、ツアーを組んでいる旅行代理店もあるので利用することもできる。運行期間は毎年3月〜11月まで。月に数本しか運行していないことも注意しておこう。

実はVSOEは、年に一度パリからイスタンブールへの特別運行も実施している。20世紀初頭の自家オリエント急行とはルートが異なるもの



の、5泊6日と日程は同様。往時を追想する東方への長旅にチャレンジするのも格別な体験になるだろう。

名門中の名門と称えられ、「走る貴婦人」と形容された豪華列車での旅は、ヨーロッパ文化の伝統と格式を再認識する旅。日本とはまた別の歴史の厚みを実感しながら、極上の鉄道旅行をぜひ味わってみたい。

資料をご要望の皆さまへ

ご覧の資料をお届けします。
ご要望の方は、お手数ですが、かんぼ生命保険の
最寄りの支店までご連絡ください。



(注) 記事中に記載の法令や制度等は取材当時のもので、将来変更されることがあります。詳細につきましては、各専門家にご相談いただきますようお願いいたします。